

キリスト教会の成り立ち

2023年7月9日

エペソ人への手紙 1章1～14節

序：(1)エペソ書の講解をする理由：「聖書の教会観を持とう」が今年の活動目標
「使徒の働き」を学び終えたばかりの時期

(2)エペソ書：パウロの教会論 (ただし神から発したもの)

1～3章 教会への神の恵み (教理)

4～6章 聖徒の神の恵みに応答する生活 (実践)

(3)エペソ教会と使徒パウロ

①第二次伝道旅行の帰途、エペソに短期間立ち寄った (使徒 18・19~21)

②第三次伝道旅行では本腰を入れて、2年3ヶ月伝道、エペソ教会設立
(使徒 19・1~20・1)

③アルテミスの大女神、大神殿、銀細工人デメテリオと同業者、エペソの街全体を揺るがす騒動 ⇒ パウロはマケドニアに脱出

④エルサレムへの帰途、エペソ教会の長老たちを近くのミレトの港に呼び寄せ、告別説教 別れを惜しむ (使徒 20・17~38)

⑤それから、2～3年後、パウロはローマの獄中からこの手紙を書き送った
(ほかに、ピリピ、コロサイ、ビレモンへの手紙も獄中書簡)
テモテⅠ、Ⅱ、テトス＝(牧会書簡)もローマの獄中から殉教直前に

⑥この手紙を受け取るエペソ教会

異邦人信者 > ユダヤ人信者

求道者や初心者(ベイビークリスチャン)向けではなくある程度成長した聖徒を対象とした内容

回覧した可能性もある(エペソ以外の教会)

I. 差出人と受け取り人

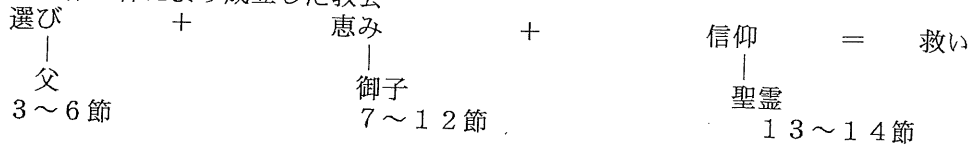
パウロ	⇒	⇒	⇒	エペソの聖徒たち
神のみこころによる				キリスト・イエスにある
キリスト・イエスの使徒から				忠実なエペソの聖徒たちへ

II. 祝福の祈り

私たちの父なる神		恵み		あなたがたの上に
主イエス・キリスト	から	平安	が	ありますように
同等・同格		神の愛／好意		
創造者／子としてくださった		神と聖徒／ユダヤ人と異邦人		
贖い主／聖徒たちの所有者				

以前は互いに他国人／今は神の家族

Ⅲ. 三位一体の神により成立した教会



天地創造の前から
主権的選び（人の業ではない）
みこころのままに
人間の墮落も見越して
思いつきや偶然ではない
予定、聖定（愛をもって）
ご自分の子とする

御子の血による贖い
罪の赦し
みこころの奥義
人間の罪の重大さ
予定（御子にあって計画）
（思慮深さと知恵をもって
知らせてくださる）賜物

真理のことば・救い
の福音を聞かせ、
信じるよう導いた
聖霊ご自身が証印
品質保証
所属証明
御国相続の保証
（手付け）

目的：御前で聖く傷のない者と
するため
キリストに似た者と変え
られるため
恵みの栄光がほめたたえ
られるため

目的：万物がキリストに帰一
キリストを中心に
御国の相続者となる

神の栄光をほめたた
えるため

目的：神の民の贖い

神の栄光が
ほめたたえら
れるため

Ⅳ. 結び

- (1) 教会（主に贖われ、救いにあずかった者たちの群れ）は神のみこころにより、予め
定めておられたご計画によって成立している
- (2) 教会（新約の神の民）はユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンの集合体
ペンテコステ～携挙
- (3) 教会を建てる = 三位一体の神の御業
父（計画） 御子（実行） 御霊（適用） ばらばらではなく一体として
- (4) 「あらかじめ定めておられた」「時が満ちて」はキーワード
神の主権・権威・支配
- (5) しかし、一方で私たちに分からせるために、ねんごろな配慮と知恵によって
導いてくださる
- (6) 私たちがこの恵みにあずかり、御国の相続者となる確証をいただいているのは、
神の栄光をほめたたえるためである
- (7) この神の御前で罪赦され、聖なる者となるには、私たちは完全に無力である
ただ、神の選び、恵み、信仰を与えられる以外に救いの道はない
- (8) 神は信仰者たちを一つに集められる（キリストにあって）＝キリストの教会